

Early Teens' Attitudes toward Street Wear
Clothing

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 服部, 由美子, 吉川, 裕子, 佐藤, 恵美, 柘植, 泰子, 細谷, 佳菜子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/4984

ローティーンの服装に対する意識と現状

Early Teens' Attitudes toward Street Wear Clothing

服部 由美子 (*1) 吉川 裕子 (*2) 佐藤 恵美 (*3)
柘植 泰子 (*4) 細谷 佳菜子 (*5)

(2011年9月30日 受付)

緒 言

近年、ファッションの多様化、商品のライフサイクルの短縮化等により、市場には多種多様な既製衣料が豊富に出回っている。また、毎日を生き生きと暮らすため、年齢、性別、障害の有無にかかわらず誰でも“おしゃれ”を楽しむことのできる社会が築かれようとしている。子どもたちの服装にもファッションの波は押し寄せており、“ファッションの低年齢化”という言葉が用いられるようになって久しい。衣服を通して、子どもたちの生きる力を育てようという“服育”¹⁾の取り組みも展開されている。

学校教育においても、中学校学習指導要領²⁾では「〔家庭分野〕2 内容 C 衣生活・住生活と自立 (1) 衣服の選択と手入れについて、次の事項を指導する。」として、「ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。」と記されている。また、中学校学習指導要領解説 技術・家庭編³⁾では「ここでは、小学校家庭科で学習した保健衛生上の着方と生活活動上の着方を踏まえて、衣服の社会生活上の機能を中心に理解し、時・場所・場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用の工夫ができるようにする。」ことが記されている。このように、中学校では社会とのかかわりの中で自分らしい着方について考えさせる学習内容や授業づくりが求められている。そのため、子どもたちは日常着用している衣服に対してどのような意識を持っているのか、心身の発達の著しいローティーンの子どもの実態を把握することが必要である。

これまで、児童生徒を対象とした衣生活に関する研究^{4) ~14)}はいくつか行われているが、ローティーンの服装に注目した報告は少ない。筆者らは、2006年度に小学校高学年の児童とその保護者および中学生を対象に、服装に対するアンケート調査¹⁵⁾を実施し、発達段階における意識の

*1 福井大学教育地域科学部生活科学教育講座 *2 福井市光陽中学校

*3 福井大学教育地域科学部附属中学校 *4 福井市足羽第一中学校

*5 福井県立福井養護学校

変化と保護者とのかかわり方を通して、ローティーンにおいて子どもたちは成長とともに衣生活への関心が高まり、自立していくうえで重要な時期であることを明らかにした。しかし、人々のライフスタイルの変化は、服装をはじめとして子どもたちの生活にさまざまな影響を及ぼしていることが考えられる。

本研究では、心身の発達が著しく、生活面において保護者から自立していく過程にある中学生を対象に服装に対するアンケート調査を行い、2006年度に実施した調査結果と比較することにより、ローティーンの子どもの服装に対する意識と現状を明らかにした。

研究方法

1. 調査対象者と時期

調査対象者は福井市およびその近郊に在住する中学生で、その構成を表1に示す。2010年度の調査は、中学生401名を対象に1～3年生は2010年12月から2011年1月にかけて、新入生は次年度の2011年4月に実施した。新入生の回答は、主に小学生の時の経験をもとにしたものである。

なお、前回の調査は、中学生323名を対象に2006年10月から11月にかけて実施したものである。

2. 調査内容

制服を除く外出着について、質問紙調査法によりA3サイズの質問用紙1枚に回答を求めた。調査項目は、子どもたちの服装の実態を明らかにするために、衣生活に対する関心、衣服購入時の情報源・重視すること・購入する衣服を選ぶ人、外出時の服装をコーディネートする頻度とその基準、ファッション（服装）に関する家族や友人との会話を取り上げ、それぞれ選択肢を設けて回答を求めた。なお、衣服購入時の情報源として雑誌を選択した場合、具体的な雑誌名は選択肢を設けず自由に記述する形式にした。

また、「あなたが今一番したい服装」「服装について、困ったことや感じていること」に関する自由記述欄を設けた。

表1 調査対象者

学 年	2006 年度			2010 年度		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計
新入生				52	54	106
1 年生	57	60	117	39	39	78
2 年生	58	56	114	49	58	107
3 年生	45	47	92	54	56	110
合計	160	163	323	194	207	401

(単位：人)

結果および考察

1. 衣生活に対する関心

中学生の衣生活に対する関心度を、図1に示す。回答は、「非常にある」「まあまあある」「どちらともいえない」「あまりない」「全くない」の5段階評定尺度で求め、無回答を除く回答数に対する割合（％）を示している。

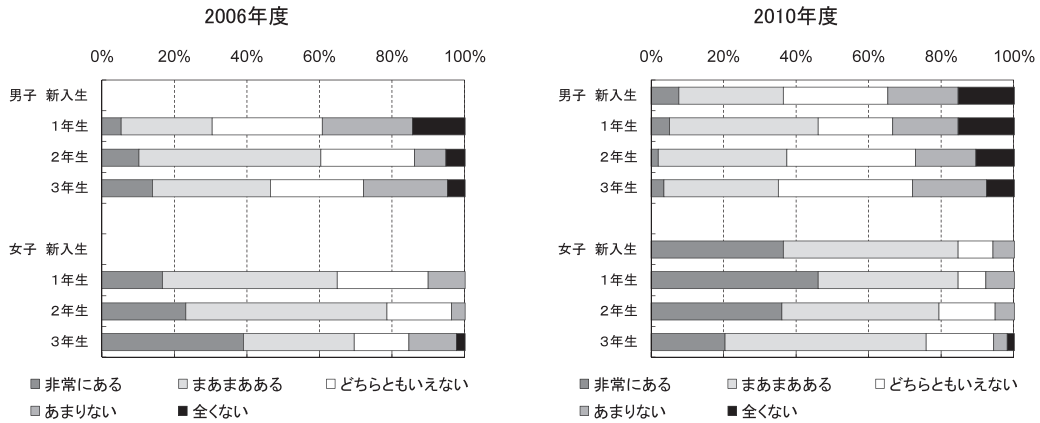


図1 衣生活に対する関心

「非常にある」「まあまあある」を合わせた肯定的な回答は、女子の回答率が高く、衣生活に高い関心を持っていることが認められる。2010年度の調査では、男子は約40%、女子は約80%を示している。これに対して、「あまりない」「全くない」を合わせた否定的な回答は、男子の回答率が高く、男子は30%程度、女子は10%以下である。学年を比較すると、1年生に比べて上級生では、肯定的な回答および否定的な回答ともに減少する傾向を示している。学年が上がるにつれて、高校入試のため受験勉強に専念していると思われるが、衣生活に対する関心が薄れていることも推察される。

また、肯定的な回答にはピークを示す学年が存在し、回答率が最も高くなる学年は2006年度の調査では男子女子ともに2年生であるが、2010年度では男子は1年生、女子は新入生と1年生である。特に、1年生女子では「非常にある」、1年生男子では「まあまあある」の回答率が前回の調査よりも著しく増加している。これらことから、中学校の1年生から2年生にかけて衣生活への関心が最も高まり、興味関心を示す時期は年々早まることが認められる。中学校の早い段階で、目的や個性を生かす着方について学習することが必要ではないかと考える。

2. 衣服購入時について

(1) 情報源

衣服購入時の情報源を図2に示す。回答は複数回答で求めている。ライフスタイルの変化を反映して、ローティーンの子どもたちがファッションに関する情報を得る手段も変化していることが認められる。

男子は、衣服購入時に参考にするものは少ないが、「お店のディスプレイ」の回答率が高く、40%前後を示している。回答率の最も高い学年は、2006年度の調査では2年生、2010年度では3年生である。次いで、「家族からの情報」であるが、学年とともに減少する傾向を示している。これら以外の回答率は低く、今回の調査では概して20%以下である。「その他」として、「自分の

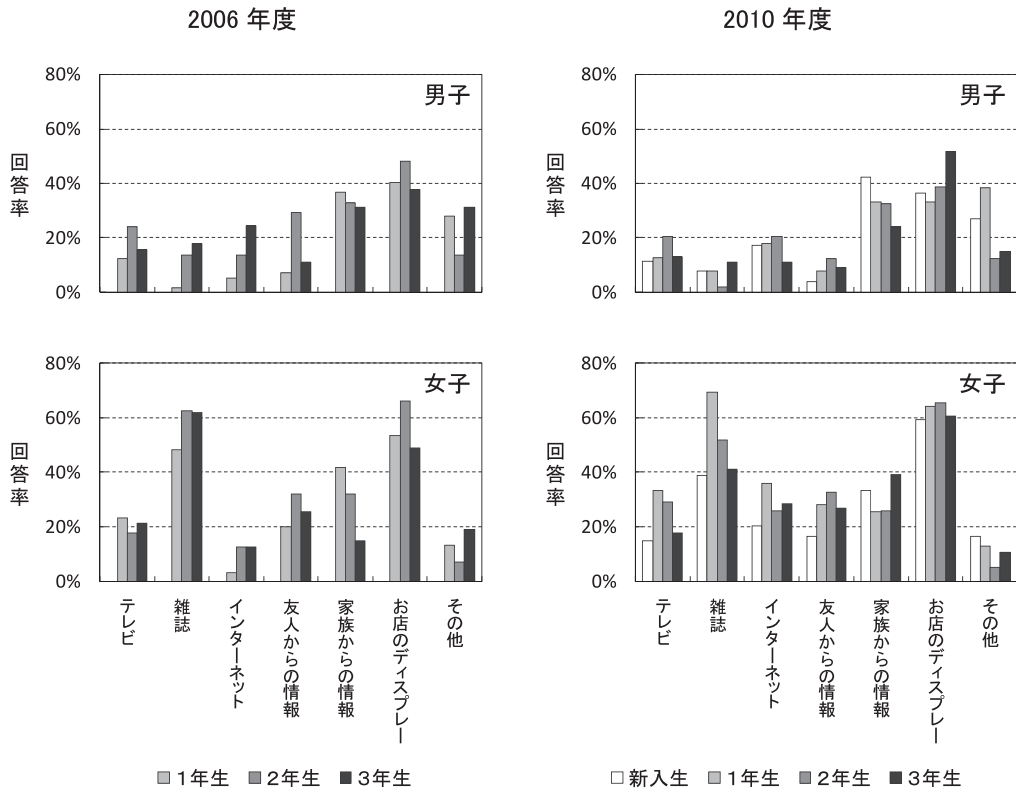


図2 衣服購入時の情報源

感覚」「ちらし」「家族の好み」などがあげられている。

これに対して、半数以上の女子は衣服購入時に参考にするものとして、「雑誌」と「お店のディスプレイ」をあげている。学年により異なるが、「その他」と2006年度における「インターネット」を除いてほとんどの項目において20%以上の回答率を示していることから、男子と比較して多方面からファッションに関する情報を得ていることが認められる。

2006年度の調査と比較して、女子では「雑誌」「インターネット」「家族からの情報」において顕著な変化がみられる。中学生における「インターネット」の普及は著しく、コンピュータからファッションに関する情報を得ている生徒が急増している。特に、1年生女子では2006年度に3.3%であったものが、今回の調査では36%まで上昇している。新入生女子の20%は小学生の段階からインターネットを利用してファッションに関する情報を得ている。社会におけるインターネットの普及は、中学生にも波及していることがうかがえる。今後、さらに低年齢化することも考えられることから、今後の動向に注目する必要がある。また、「家族からの情報」は前回の調査では学年とともに回答率は減少する傾向を示しているが、今回の調査では3年生女子は増加してい

ることから、家族のかかわり方に変化が生じていることが推察される。

「雑誌」は、特に1年生女子において回答率の増加が著しい。前回の調査では48%であったものが、今回は69%まで上昇し、4年間に20%以上高くなっている。しかし、2年生と3年生では、前回の調査では60%以上を示しているが、今回の調査では2年生51.7%、3年生41.1%と回答率は減少している。ファッション雑誌の低年齢化と上級生における雑誌離れの傾向を示している。

衣服購入時の情報源として女子において雑誌の影響が大きいことから、読まれている雑誌を抽出し、各学年において回答率10%以上のものを表2に示す。なお、『SEVENTEEN』は2008年10月号より表記が『Seventeen』に変更されている。

ローティーン向けの雑誌は、男子向けものは少なく、女子向けものが多く刊行されていることから、抽出された雑誌名は男子4種類に対して女子35種類である。そのうち、10%以上の生徒が読んでいる雑誌は、男子向けの雑誌は存在しない。女子向けの雑誌は学年により異なり、この4年間に変化がみられる。

2010年度の調査では、読まれている雑誌として新入生は『nicola』、1年生は『Seventeen』『nicola』『Popteen』『ピチレモン』、2年生と3年生は『Seventeen』『Popteen』が主流を占めている。2006年度の調査では『Hana*chu→』が読まれていたが、2011年度5月号を最終号として休刊していることもあり、これに変わって「かわいい女の子」を意識した10代の女の子向け雑誌である『Popteen』が読まれている。

同一の雑誌を比較しても、ファッション雑誌の低年齢化と上級生における雑誌離れの傾向がみられる。例えば『Seventeen』における1年生の回答率は、2006年度の調査では16.7%を示しているが、2010年度の調査では33.3%に増加している。しかし、2年生の回答率は前回50.0%から今回は29.3%に減少し、3年生は44.7%から12.5%にさらに減少している。『nicola』においても同様に、1年生女子では前回15.0%に対して今回は28.2%に増加している。

また、前回の調査と比較して、3年生では男子女子ともに「お店のディスプレイ」の回答率が増加していることに注目される。実際に商品を見てから品物を選ぶ傾向にあり、商品を提供する側にとって、VMD（ビジュアル・マーチャンダイジング）の重要性を示唆している。

表2 参考にしている主な雑誌

(単位: %)

学 年	2006年度	2010年度
新入生		nicola(18.5)
1年生	SEVENTEEN(16.7), nicola(15.0), Hana*chu→(15.0)	Seventeen(33.3), nicola(28.2), Popteen(12.8), ピチレモン(10.3)
2年生	SEVENTEEN (50.0), Hana*chu→(26.8)	Seventeen(29.3), Popteen(12.1)
3年生	SEVENTEEN (44.7), CanCam(10.6)	Seventeen(12.5), Popteen(10.7)

() 内の数字は、各学年に占める回答者の割合を示す。

（2）衣服購入時に重視すること

衣服購入時に重視することを、図3に示す。回答は複数回答で求めている。2006年度の調査と比較して、衣服購入時に重視することには大きな変化は認められない。

男子において重視されることは、「サイズ」「似合うこと」「色」「価格」「デザイン」である。「動きやすさ」は、新入生と1年生男子では重視されるが、2年生と3年生では回答率が減少する傾向を示している。また、1年生男子において「デザイン」の回答率は、前回の調査では61%に対して今回の調査では85%に増加していることから、「デザイン」を重視する男子が多くなる傾向を示している。

女子において重視されることは、男子と同様「サイズ」「似合うこと」「色」「価格」「デザイン」の回答率が高いが、さらに「流行」「手持ちの衣服との組み合わせ」が加わる。男子と比べて、「動きやすさ」はそれほど重視されず、「機能性」よりも「ファッション性」が重視されている。

男子女子ともに、「他者が認めること」「手入れのしやすさ」は、それほど重視されない傾向を示している。「他者が認めること」については、衣服購入時に家族からの情報を参考にしている

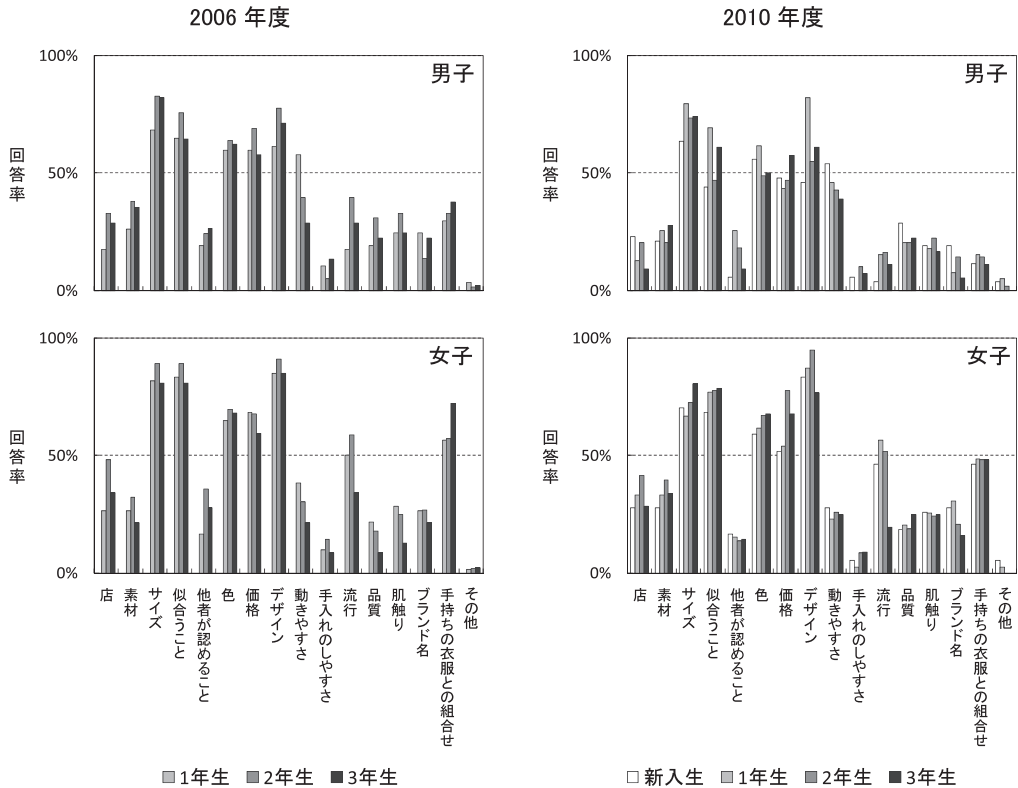


図3 衣服購入時に重視すること

表3 購入する衣服を選ぶ人

		(単位: %)							
対 象	自分	父	母	祖父	祖母	兄*	姉*	友人	
男子	新入生	69.2	17.3	80.8	0.0	5.8	10.0	37.5	3.8
	1年生	82.1(87.7)	7.7(19.3)	84.6(73.7)	0.0(0.0)	10.3(7.0)	0.0(13.3)	50.0(33.3)	2.6(1.8)
	2年生	75.5(93.1)	10.2(5.2)	67.3(62.1)	0.0(1.7)	2.0(3.4)	0.0(18.8)	12.5(27.8)	0.0(3.4)
	3年生	84.9(93.3)	5.7(2.2)	56.6(37.8)	1.9(0.0)	1.9(2.2)	16.7(20.0)	15.8(12.5)	0.0(2.2)
女子	新入生	92.6	14.8	92.6	1.9	14.8	0.0	37.5	0.0
	1年生	92.3(95.0)	7.7(1.7)	89.7(70.0)	0.0(0.0)	7.7(3.3)	0.0(0.0)	54.5(42.9)	0.0(0.0)
	2年生	96.6(96.4)	3.4(1.8)	77.6(67.9)	0.0(0.0)	3.4(3.6)	15.4(0.0)	38.5(54.5)	8.6(5.4)
	3年生	96.4(97.9)	3.6(2.1)	48.2(63.8)	1.8(2.1)	1.8(6.4)	0.0(7.1)	35.3(40.0)	7.1(0.0)

()内の数値は、2006年度の調査結果である。 * 兄または姉のいる人に対する割合を示す。

こともあると思われるが、改まった場所には制服を着用し、日常では服装の個性化・カジュアル化が浸透しているため衣服を自由に選択着用でき、服装によりステータスよりも自分らしさを表現できる生活環境になっていることなどから、他者のことをそれほど気にしないのではないかと考えられる。また、「手入れのしやすさ」については、中学生では洗濯や保管などの衣類の管理は家族に任せて衣服の手入れについて考える機会が少ないこと、比較的手入れのしやすい衣服が多く市販されていること、成長による体形変化の著しい時期であるため1着の服を大切に長く着ることはそれほど求められていないことなどが、重視されない理由として考えられる。

(3) 購入する衣服を選ぶ人

購入時に衣服を選ぶ人を、表3に示す。回答は複数回答で求めている。なお、「兄」と「姉」については、それぞれ「兄」と「姉」のいる人に対する割合を示している。

男子女子ともに、中学1年生までは「母」の影響が大きく、回答率は80%以上を示している。しかし、2年生以上になると「母」の回答は減少し、衣生活において自立していく様子が見えてくる。前回の調査と比較して今回の調査では、新入生と1年生は「母」以外に「姉」の影響も大きく、「父」や「祖母」の回答も存在していることから、保護者の方に自分の趣向にあった服を子どもに着せたいという意向も出てくる。

購入する衣服を自分で選ぶ生徒は、2010年度の調査をもとにすると、女子は新入生においてすでに92.6%を示していることから小学生の頃から「自分」で衣服を選び、男子は新入生69.2%に対して1年生82.1%であることから、中学生になってから「自分」で衣服を選ぶ傾向にある。

3. 外出時の服装について

外出時の服装を自分でコーディネートする頻度を、図4に示す。回答は、「いつもする」「ときどきする」「あまりしない」「全くしない」の4段階評定尺度で求め、学年ごとに無回答を除く回答数に対する割合(%)を示している。

「いつもする」「ときどきする」を合わせた肯定的な回答は、2006年度の調査では男子は学年

が上がるにつれて増加する傾向を示し、1年生70.2%に対して2年生男子の90%近くは自分でコーディネートしている。しかし、今回の調査では肯定的な回答は1年生が最も高く約80%を示し、2年生と3年生では70%以下まで減少していることから、ファッションに対する関心が低年齢化している一方、上級生では関心が薄れていく傾向を示している。

女子は、自分で着用する衣服を選ぶ意識が高く、調査年度にかかわらず「いつもする」「ときどきする」を合わせた肯定的な回答は90%以上を示している。新入生においても高い値を示していることから、すでに小学生の段階から自分の好みに合った服を選んでいることが、購入時だけでなくコーディネートにおいてもうかがえる。

外出時の服装をコーディネートする時、気にすることを表4に示す。回答は複数回答で求めている。男子女子ともに「気温」という回答が多いが、前回と比較すると減少する傾向を示している。繊維製品における快適素材の開発、乗り物や住宅、建築物などにおける空調設備の充実などから、衣服の機能として体温調節よりもファッション性に重きが置かれる傾向にあることを示唆

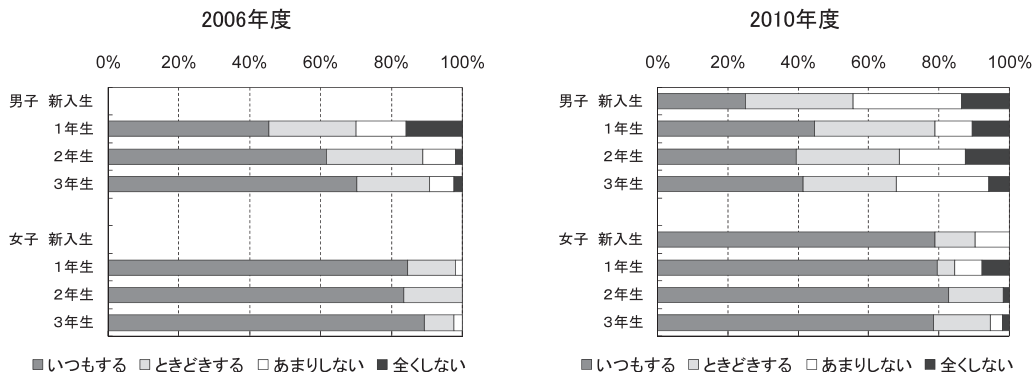


図4 外出時の服装をコーディネートする頻度

表4 外出時の服装をコーディネートする時、気にすること

							(単位: %)
対象	天候	気温	時	場所	目的	気分	
男子	新入生	36.5	67.3	9.6	34.6	26.9	32.7
	1年生	20.5 (29.8)	53.8 (61.4)	7.7 (12.3)	46.2 (40.4)	46.2 (47.4)	53.8 (56.1)
	2年生	32.7 (37.9)	59.2 (63.8)	30.6 (29.3)	49.0 (69.0)	51.0 (65.5)	36.7 (41.4)
	3年生	31.5 (31.1)	44.4 (71.1)	11.1 (35.6)	48.1 (62.2)	40.7 (64.4)	38.9 (57.8)
女子	新入生	48.1	66.7	25.9	55.6	50.0	55.6
	1年生	38.5 (53.3)	66.7 (70.0)	20.5 (20.0)	71.8 (68.3)	66.7 (68.3)	71.8 (58.3)
	2年生	55.2 (48.2)	67.2 (78.6)	31.0 (44.6)	77.6 (76.8)	58.6 (66.1)	60.3 (73.2)
	3年生	37.5 (38.3)	69.6 (80.9)	33.9 (12.8)	76.8 (68.1)	62.5 (53.2)	64.3 (72.3)

()内の数値は、2006年度の調査結果である。

している。

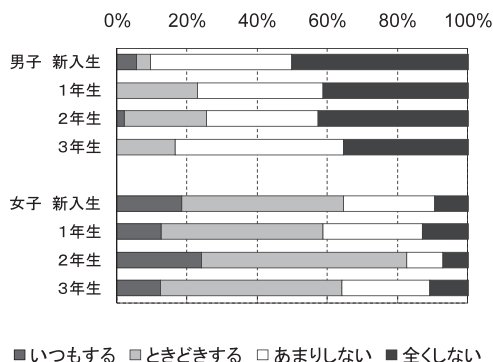
男子は女子と比較して、各項目における回答率は低く、2006年度の調査と比較しても、全体的に回答率は減少していることから、服装をコーディネートするにあたり、TPOを気にしない傾向にある。女子は、「場所」「目的」「気分」の回答率も高く、新入生に対して1年生では回答率が上昇している。家庭科の授業が生かされていることを期待したいが、中学校に入学後服装に対する意識に変化が生じ、着用する衣服についてTPOを考えて服装をコーディネートする女子が増加する傾向を示している。

4. ファッション（服装）に関する家族や友人との会話について

家族や友人とファッション（服装）について話をする頻度を、図5に示す。ファッション（服装）について話をする頻度は、「いつもする」「ときどきする」を合わせた肯定的な回答は、男子の回答率は新入生9.6%、1年生23.1%、2年生24.5%、3年生16.7%を示し、男子は家族や友人とファッションに関する会話をする機会は少ない。これに対して、女子の回答率は高く、新入生64.8%、1年生59.0%、2年生82.8%、3年生64.3%を示しているように、半数以上の女子は家族や友人とファッションについて会話をしている。

「いつもする」「ときどきする」と回答した人に話をする相手を探ね、表5に示す。回答は複数回答で求めている。回答率50%以上の学年に網掛けをしている。

男子女子ともに、1年生までは「母」と話をしている人が多いが、3年生になると減少している。新入生の男子では「父」や「兄」、



■いつもする ■ときどきする □あまりしない ■全くしない

図5 ファッションについて話をする頻度

表5 ファッションについて話をする人

対象	(単位: %)										
	父	母	祖父	祖母	兄*	姉*	弟*	妹*	友人	その他	
男子	新入生	40.0	100.0	0.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	1年生	33.3	77.8	0.0	0.0	33.3	0.0	25.0	0.0	11.1	0.0
	2年生	16.7	58.3	0.0	0.0	50.0	40.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	3年生	22.2	22.2	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
女子	新入生	20.0	85.7	0.0	11.4	42.9	80.0	0.0	41.7	65.7	8.6
	1年生	13.0	87.0	0.0	13.0	0.0	100.0	0.0	60.0	60.9	13.0
	2年生	2.1	85.4	2.1	4.2	25.0	100.0	0.0	63.6	66.7	0.0
	3年生	11.1	72.2	0.0	5.6	14.3	100.0	0.0	55.6	47.2	2.8

* 兄弟姉妹のいる人に対する割合を示す。

女子では「姉」や「妹」の回答率も高いことから、小学生の時からファッションに関して家族で共通の話題になっていることが推察される。女子は、「姉」や「妹」のいる人は中学生になると会話をする機会が多くなることから、話し相手は母から姉妹に変わっていくが、女子にとってファッションに関する話題は、家族や友人とコミュニケーションを図るうえで重要な役割を果たしていると考えられる。

5. ローティーンにおける服装の現状と課題

「今一番したい服装」に対する自由記述欄には、2010年度の調査では男子124名（59.3%）、女子179名（86.5%）からイラストまたは文字による記述があり、服装に対する興味関心の高さを示している。

抽出されたキーワードを分析すると、具体的なアイテムとして下衣では「ジーンズ」または「ジーパン」（男子18名、女子11名）の他に、男子は「ハーフパンツ」（12名）、女子は「スカート」（12名）と「ショートパンツ」（10名）、上衣では「長袖」「半袖」「7分袖」のような袖の長さ、「丸首」「タートルネック」「Vネック」のような衿の形など指定されているが、「Tシャツ」「トレーナー」（男子46名、女子50名）の記述が多い。全身衣については、男子では「ジャージ」（13名）、女子では「ワンピース」（17名）などもみられる。また、「楽な服」「動きやすい服」といった快適さや機能性に関する内容（男子20名、女子20名）、調査時期が「冬」ということもあり、女子は「暖かい服」（20名）を要望する記述も多い。流行を考慮しながら、日常生活を快適に過ごすために着心地のよい服が求められている。その他、女子では「かわいい服」（19名）を望む記述も多い。

「服装について、困っていることや感じていること」に関して、男子37名（19.1%）に対して女子81名（39.1%）から記述があり、女子からの要望が多い。主な内容は「好みに合う服がない」「欲しいものがない」「お店がない」といった購入に関する記述（男子10名、女子21名）、「サイズが合わない」「すぐ着られなくなる」といったサイズに関する記述（男子11名、女子14名）、その他女子では「値段が高い」といった記述（22名）が多い。また、特に2年生と3年生では「何を着ればいいのかわからない」「似合うかどうかわからない」「組み合わせがわからない」など服装のコーディネートに関する記述（14名）もみられた。

現在の衣生活において、私たちが日常着用する衣服を入手する方法として、個人の体形や好みを反映させて製作される注文服、着用者自身あるいは家庭で製作される自家製作よりも、あらかじめ製作された衣服いわゆる既製服を選択購入することが一般的である。既製服の場合、すぐに着用できるため便利ではあるが不特多数の人を対象になるべく多くの人に適応・適合するようにつくられているため、個人のサイズや好みに対応できる範囲に限界がある。個性や体形の個人差を考慮すると、既製衣料のサイズや購入に関して要望があることは当然であると考えられる。既製服の生産と流通、選び方について理解を深めることが大切である。

社会や生活環境の変化は、子どもたちの生活に影響を及ぼしていることは明らかであることが

ら、再調査を適宜継続することが必要である。

結 語

ローティーンの子どもたちの服装に対する意識と現状を明らかにするために、中学生を対象に衣生活に対する関心、衣服購入時および着用時の選択基準、ファッションに関する家族や友人とのかかわり方をアンケート方式で調査した。そして、2006年度に実施した調査結果と比較することにより、次のようなことが明らかとなった。

- 1) ローティーンにおいて衣生活に対する関心が高まる時期は年々早まる一方、学年が上がるにつれて関心は薄れていく傾向を示した。購入や着用する衣服の選択において、中学2年生までは「母」への依存度は大きい。しかし、前回の調査と比較して新入生と1年生では「父」「祖母」「姉」の影響もみられ、家族のかかわり方に変化が生じていることが示唆された。また、女子は中学生になると「姉」や「妹」とファッションに関する話をする機会が多くなり、ファッションに関する話題は家族や友人とコミュニケーションを図るうえで重要な役割を果たしている。
- 2) ライフスタイルの変化を反映して、ローティーンの子どもたちがファッションに関する情報を得る手段に変化が認められた。主な情報源は、男子女子ともに「お店のディスプレイ」であるが、女子は「ファッション雑誌」の占める割合も高い。2006年度の調査と比較して今回の調査では、「雑誌」の回答率が1年生女子において著しく増加している一方、2年生と3年生では減少し、ファッション雑誌の低年齢化と上級生における雑誌離れの傾向を示した。また、インターネットの普及は著しく、衣服購入時に「インターネット」を参考にする1年生女子は4年間に3.3%から36%に増加した。
- 3) 衣服購入時に重視することは、前回の調査と比較して概して大きな変化はみられず、「サイズ」「似合うこと」「色」「価格」「デザイン」であり、男子では「動きやすさ」、女子では「機能性」よりも「ファッション性」を重視する傾向から「流行」「手持ちの衣服との組み合わせ」が加わる。また、外出時の服装をコーディネートするにあたり、男子はTPOをそれほど気にしていないが、女子は中学校に入学後服装に対して意識に変化が生じ、TPOを考えて着用する衣服を選ぶ傾向がみられた。
- 4) 自由記述では服装への関心の高さが示され、キーワードによる分析から「今一番したい服装」のアイテムとして、下衣では「ジーンズ」または「ジーパン」の他に、男子では「ハーフパンツ」、女子では「スカート」と「ショートパンツ」、上衣では「Tシャツ」「トレーナー」、全身衣では男子は「ジャージ」、女子は「ワンピース」の記述が多くみられた。また、「楽な服」「動きやすい服」「暖かい服」、女子では「かわいい服」に関する記述が多く、流行を反映させながら、着心地のよさが求められている。「服装について困っていることや感じていること」として、「欲しいものがない」「サイズが合わない」「値段が高い」「何を着ればいいのかわからない」

など、既制服の購入やサイズ、服装のコーディネートに関する記述が多くみられ、既制服について理解を深める必要性が示唆された。

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご協力下さいました関係者の皆様に感謝申し上げます。

文 献

- 1) 服育 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
<http://ja.wikipedia.org/wiki/服育>
- 2) 文部科学省：中学校学習指導要領，東山書房，101（2008）
- 3) 文部科学省：中学校学習指導要領解説 技術・家庭編，教育図書，59-60（2008）
- 4) 友成洋輔他：ローティーン・アパレル市場に対する一考察
http://www001.upp.so-net.ne.jp/tensemi_2005/cosme_kison_arima.pdf
- 5) 増淵哲子・武井洋子：児童生徒の消費行動（第1報）－衣生活領域について－，日本家庭科教育学会誌，**31**，21-27（1988）
- 6) 岡村美乃里・諸岡晴美・中川眸：小・中・高等学校における体系的な衣生活教育に関する研究（1）－衣服購入および衣服整理についての調査から－，日本家庭科教育学会誌，**40**，39-46（1997）
- 7) 岡村美乃里・諸岡晴美・中川眸：小・中・高等学校における体系的な衣生活教育に関する研究（2）－衣服の補修・廃棄と衣生活領域への関心についての調査から－，日本家庭科教育学会誌，**41**，5-32（1998）
- 8) 小松恵美子・森田みゆき・藤本尊子：道内の児童生徒の衣生活実態に応じた被服教育の提案－1991年と1998年の調査の比較から－，北海道教育大学へき地教育研究施設「へき地教育研究」，第57号，129-133（2002）
- 9) 矢野由起：生活事象や生活行動に対する小学生の理解（第1報）－衣生活および食生活分野を中心に－，日本家庭科教育学会誌，**45**，41-51（2002）
- 10) 長山芳子他：児童生徒の家庭生活における意思決定の背景（第1報），日本家庭科教育学会誌，**49**，93-102（2006）
- 11) 松尾美江・滝山桂子・益本仁雄：衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析（第1報）－学習関心と行動の契機－，日本家庭科教育学会誌，**48**，206-215（2005）
- 12) 滝山桂子・松尾美江・益本仁雄：衣生活システムの概念を導入した中学生の衣生活の実態分析（第2報）－自己情報の保有状況および属性別比較－，日本家庭科教育学会誌，**48**，216-225（2005）
- 13) 日本家庭科教育学会編：『児童生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築－家庭生活についての全国調査の結果－』，日本家庭科教育学会，東京（2002）
- 14) 日本家庭科教育学会編：『児童生徒の家庭生活の意識・実態と家庭科カリキュラムの構築－「家庭生活についての全国調査」の質的分析とクロス集計結果－』，日本家庭科教育学会，東京（2003）
- 15) 細谷佳菜子・服部由美子・浅野尚美・柘植泰子・森 透：児童生徒の服装に対する意識と着装行動，福井大学教育実践研究，第32号，157-165（2007）